

アスペルガー症候群の理解(1)

「アスペルガー症候群」「学習障害(LD)」「注意欠陥多動性障害(ADHD)」「高機能自閉症」を軽度発達障害といいます。しかし、“軽度”は知的な遅れはないという意味で、症状の軽重を表すものではありません。また、脳機能の障害といわれており、治療により“治る”というものでもありません。彼らが生活に適応し、自分の能力や特性を生かせるようになるために、援助者である教師には、障害についての理解を深め、子どもたちがなぜ困っているのかを理解し、効果的な援助を行うことが求められると言えます。

アスペルガー症候群とは？

アスペルガー症候群と高機能自閉症は、厳密には異なる障害であるが、教育的対応としては、同じような障害と考えられる。

アスペルガー症候群の特徴
(自閉症の特徴を有する者のうち)

言葉の後れを伴わない

知的障害を伴わない

具体的には次のような特徴がある。

社会性の障害

- ・初対面の人でも興味のあることを訊く
- ・目上の人にも友達と同じように接する
- ・形式的行動や紋切り型の行動が見られる
- ・人を気遣えない。暗黙の了解がわからない
- ・社会の常識やルールがわからない。

コミュニケーションの障害

- ・独特な言い回しが見られる
- ・自分の好きな話題に固執する
- ・冗談、比喩、皮肉などが理解できない
- ・相手の表情、身ぶりが理解しにくい

こだわりと想像力欠如の障害

- ・相手の感じ方や意図を推し量れない
- ・興味のあるものにこだわって集める
- ・同じ状態を好み、変化を嫌う
- ・あいまいなことが理解できない
例：「もうちょっと」「お父さんいる？」



どんな対応が有効？

指示は短く、具体的に！
指示を複数重ねない！
指示は断定的に言おう！

大声での叱責は逆効果！
「～した方がいい」「～ならいいよ」と肯定形で伝えよう！

周りが変わろう
(人的・物的環境調整)

論理的に伝える！
白か黒か！
(曖昧はわからない)

教室の整理整頓！
無用な刺激物をおかない！
座席にも配慮を！

いつ、どの課題を、どのようにやるのか、終わったらどうするのかをあらかじめ決める！



探してもほめる！
少しの進歩をほめる！

こだわりや得意を生かして活動させる！

社会的常識を教える！
1つ1つの場面で丁寧に、改善点をはっきり伝える！

自信をつけさせよう
(ほめる 自信 意欲)

いじめから守る！
出来事を表面的に見ない！

知っておきたい対処方法

問題行動を減らすためには、望ましい行動を増やす

指導しやすい行動から改善を図る

より多くの面前で起こる行動から改善を図る

キレたり暴力をふるう前に興奮を抑える
「無理強い」は禁物

周囲に理解ある大人の存在が絶対に必要

- 【参考文献】 岩手県教育委員会『LD・ADHD・高機能自閉症児の理解と支援の手引』,平成16年
児童心理 6月号臨時増刊『軽度発達障害の子への援助の実際』,金子書房,2005
尾崎洋一郎 草野和子『高機能自閉症・アスペルガー症候群及びその周辺の子どもたち-特性に対する対応を考える-』,同成社,2005